

研 修 参 加 報 告 書

令和7年4月28日

会 派 名 日本共産党江南市議員団
会派代表者 掛布まち子

(参加者：三輪陽子)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

①

年 月 日	令和7年4月22日（火）
研修時間	13：30～15：15
研修場所	Zoom開催（オンライン）
研修内容	分断と孤立を乗り越える 地方財政の新しい地平を求めて！

②

年 月 日	令和7年4月22日（火）
研修時間	15：30～16：30
研修場所	Zoom開催（オンライン）
研修内容	希望を持って生きる 自立支援釧路モデル

研 修 参 加 報 告 書

①

年 月 日	令和7年4月22日（火）
研修時間	13：30～15：15
研修場所	Zoom開催（オンライン）
研修内容	分断と孤立を乗り越える 地方財政の新しい地平を求めて！
■目的 分断と孤立を乗り越える地方財政の在り方を学ぶ。	
■内容 分断と孤立を乗り越える 地方財政の新しい地平を求めて！ 講師 立命館大学教授 森 裕之 氏 ・日本社会に孤独・孤立が広がり、それが新しい社会問題になっていることを知る。 ・孤独・孤立の広がり、人々の「元気」を衰退させてきた。 ・孤独・孤立は社会生活の領域に属する事柄であると認識されてきたことから、政治や経済の課題とは考えられてこなかった。 ・行財政の主流派理論は「個人」（家計）を単位に据えて構築され、現実の制度においても「個人」を対象とした財政運営しか行われてこなかった。 ・このような中で人々の「元気」を取り戻すためには、孤立問題の解決を目指した「コミュニティ」（人とのつながり）の再建を推し進めていく以外にない。 ・孤立問題の解決へ向けた制度改革が徐々に進み始めており、自治体はこれらの制度の背景にある社会状況への認識を強め、様々な実践を行っていかなければならない。 ・「人とのつながり」（関係価値）の重要性を自治体政策の中に取り入れる。 ・「コモンズ」の成立 コミュニティにとって価値あるもの+コミュニティの活動と「人とのつながり」の価値 を意識した自治体政策が必要である。 ・地方財政はあらゆる場面で「人と人をつなぐ」政策を考えて予算を組むべき。	
■所感 孤立を個人の問題とせず、自治体としてその解決を図ることが必要である。 これまでは単に人が集まる場所としてつくってきた公共施設を人と人がつながる「コモンズ」として機能させるようにしていくことが重要である。 老人ホームに地域の人や子どもが集う場所をつくる取り組みなど、これからの施設の在り方を学んだ。	

研 修 参 加 報 告 書

②

年 月 日	令和7年4月22日（火）
研修時間	15：30～16：30
研修場所	Zoom開催（オンライン）
研修内容	希望を持って生きる 自立支援釧路モデル
■目的 生活保護受給者が自立するための支援の方法を学ぶ。	
■内容 希望を持って生きる 自立支援釧路モデル 報告者 一般社団法人釧路社会的企業創造協議会代表理事 櫛部 武俊 氏 ・一般社団法人「釧路社会的企業創造協議会」の沿革を知る。 ・釧路市から委託された就労移行型インターンシップ事業（製網作業）について写真などで知る。 ・自立支援プログラムの基本方針として、就労による経済的自立のためのプログラムのみならず、日常生活自立、社会生活自立を目指すプログラムを幅広く用意し、多様な課題に対応できるようにすることが必要である。 ・社会生活の仕方が違っていても「私という実存を獲得する」ことが「自立」。そのために支援者・当事者が行き合うハブが必要である。 ・支え合い、つながり合う場づくり（公園ボランティア、介護ボランティアなど）で自立を支援していく道筋がある。 ・貧困の連鎖を防ぐため、学習支援やありのままにいられる居場所づくりや交流の場づくりも進める。 ・生活保護受給者の社会的居場所づくりからNPO、社会福祉法人、住民等と企業、行政が協働する新しい公共をつくり出す仕組みをつくる。	
■所感 生活保護受給者の個々の困難に寄り添い、その人にあった支援につなげ、当事者が支え合い、つながりを実感する中で、自分の値打ちに気づき、人の役に立っている体験から自尊心を持ち、自立につなげている例をたくさん見ることができた。 江南市の取り組みに生かしていける場所を探りたい。	